

プロジェクト情報

- 国名：ウガンダ
- 事業名：北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（技術協力プロジェクト）
- 協力期間：2015年から2020年
- 相手国機関：農業畜産水産省

1. プロジェクトの背景・概要

ウガンダの北部地域は、内戦終結後も貧困率が60%以上を占めるなど、南部地域との経済格差が存在しています。北部地域の労働人口の多くが農業に従事していますが、同地域には、南スーダンやコンゴ民主共和国へ通じる交通網が存在しており、農産物の輸出には有利な状況です。しかし、内戦の影響により住民の農業技術や経験の蓄積が乏しく、農業生産性が低いために、その優位性を十分に活かしていません。このため、生産性向上のための農家の農業技術力の強化や収益性の改善に向けたマーケティング能力の強化などが必要とされています。そこでJICAは、ウガンダ北部アチョリ地域¹において、農家の適正栽培技術の向上と市場志向型農業の推進を通じて、対象地域における農家の生計向上を支援するプロジェクトを開始しました。

2. ジェンダー視点に立った取り組み

(1) ウガンダ北部地域におけるジェンダー課題の把握

プロジェクトでは、対象地域の概要を把握するため、ベースライン調査の一環として、現地の県行政のジェンダー担当官と連携しつつ、地域の農業や世帯内における男女の役割や責任、女性の土地や農業資材へのアクセスの現状や意思決定への参画状況など、地域のジェンダー課題に関する情報収集と分析を行いました。その結果、女性たちの識字率が低いことや、意思決定の場では女性の参加が限られる傾向があること、女性世帯主や低年齢で母親になった女兒などが社会的差別の対象になっており、土地を利用はできても所有ができず、中には親戚に土地を奪われるケースもあるといった実態が把握されました。さらに、精神的なトラウマを抱えた男性たちからの暴力があることなど明らかになりました。

(2) 女性の参加の促進

女性たちをとりまく現状を改善するために、プロジェクトでは活動への女性たちの参加を積極的に推進してきま

した。対象農家グループを選定する際は、女性がグループメンバーの3分の1を構成していることを選定基準の1つに掲げましたが、これにより、対象地域のすべてで、農家グループにおける女性の割合が半数を超えました。また、プロジェクトが市場調査やビジネスフォーラムの開催といった比較的大きなイベントや活動を実施するときは、各グループから男女1名ずつ代表者を選ぶなどして女性の参加を促しました。女性たちは、イベントで市場調査の結果を報告したり、市場関係者との人脈を構築することによって自信を高め、栽培作物の品目の選定など、プロジェクトの活動上大事な意思決定の場面でも積極的に意見を述べるようになりました。



(3) 男性の理解と意識の向上

内戦の影響で2006年まで住民の9割が避難民キャンプで生活し、その間、住民は国際機関やNGOからジェンダー啓発研修を受けた経験がありました。しかし、「ジェンダー」の概念が正しく理解されておらず、プロジェクト開始時には「ジェンダー」という用語にアレルギー反応を示す男性も多くいました。そこでプロジェクトでは、女性だけではなく、元少年兵や障害者などの包摂性をも意識し、「あらゆる人々のエンパワメント」の概念に基づく研修を行ってきました。たとえば、「ジェンダーと社会的弱者に関する研修」では、ジェンダーや社会的弱者に関する課題を特定し、改善に向けてどのような取り組みが必要かを研修の参加者で話し合い、アクションプランを作成しています。また、家計管理や栄養改善に向けた研修においては、研修参加者の家族の参加を奨励し、家族で共に話し合うスタイルを導入しつつ講義や演習を行ったところ、ジェンダーに関する理解も深まり、家庭内やコミュニティ内における男女間の関係にも良い変化が生まれてきました。



男女一緒に食料カレンダーづくり

プロジェクトは、対象農家グループの収入向上にとどまらず、農家の家族の栄養改善やジェンダーに基づく差別の是正や役割意識の改善などにも変化をもたらしており、対象農家グループの生計や生活の向上に貢献しています。

¹ アチョリ地域は北部地域（アチョリ、西ナイル、カラモジャ、ランゴ）のうち、反政府武装勢力「神の抵抗軍」（Lord's Resistance Army：LRA）の影響を最も強く受けた地域であり、JICAは「北部ウガンダ復興支援プログラム（2009-2015年）」において同地域を重点的に支援してきました。